



令和8年度 糸島市立前原中学校

学校だより

令和8年7月1日(水) 文責 教頭 森 瑞樹

1年生ばるちゅう STEP UP を実施しました。

1年生は、6月1日(月)～2日(火)に「ばるちゅうSTEP UP」を行いました。この取組は、中学校で初めて経験する中間考査を見据え、集中して問題を解いたあと、誤答や時間配分を振り返り、自己分析・自己改善する力の育成を目指しています。



ばるちゅうタイム「質問教室」を開きました。

文部科学省から教育課程柔軟化の先行研究開発学校に指定されたことを受けて取り組んでいる、通称「ばるちゅうタイム」。その一つに生徒の主体的な参加による活動があります。

前期中間考査前は、生徒たちが放課後の時間を使って苦手教科の克服や理解できていない学習内容についての補充を目的に取り組みました。課題意識をもって参加した生徒は、黙々と自分の課題に挑んだり、教師に積極的に質問したりして学習に向き合っていました。



自ら進んで課題を設定して、意欲的に学習に取り組む生徒の育成

文部科学省が全国的に子どもたちの学力状況を把握するために実施している「全国学力・学習状況調査」は有名ですが、他にも世界的な規模で実施されている「PISA調査」というものがあります。これはおおむね3年ごとに実施されており、直近の「PISA2022」は81か国・地域から約69万人の15歳の生徒が参加しています。その結果において、日本は「数学的リテラシー」、「読解力」、「科学的リテラシー」の分野において世界トップレベルの結果となりました(※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校による影響が他国に比べ少なかった可能性が指摘されている)。

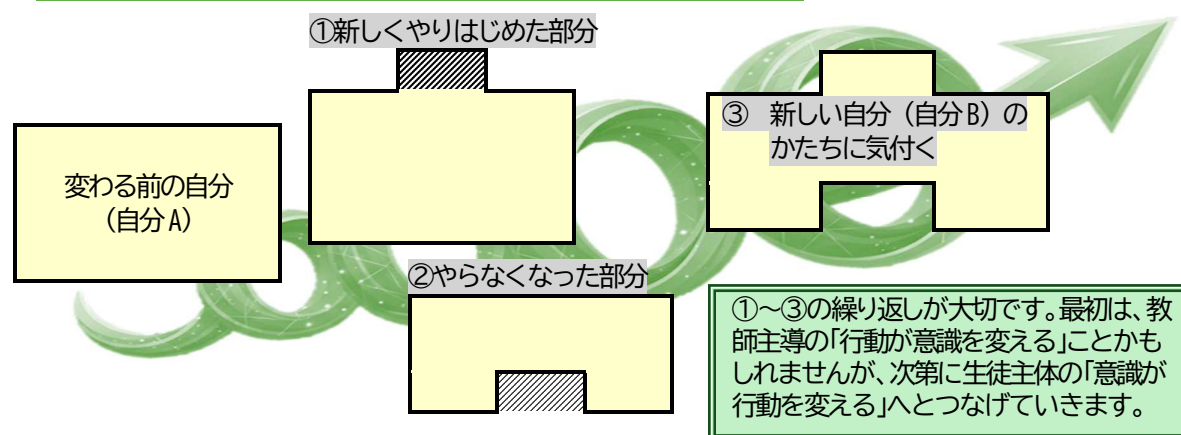
前回調査より平均点が上昇し、世界トップレベルの結果となった一方で、同調査では日本の生徒は、「自力で学校の勉強をこなす」「自分で学校の勉強をする予定を立てる」「言われなくても学校の勉強にじっくり取り組む」「自分の学習の進み具合を評価する」「学校の勉強をするやる気を出す」という質問に対し、「あまり自信がない」「自信がない」と回答

率が高く、自律的に学ぶ自信がない生徒が非常に多い結果が明らかとなりました。

また、ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」(2022)によると、「上手な勉強の仕方がわからない」と回答する子どもは学年が上がるほど増加していますが、特に小6から中1にかけて割合が多くなっています。

このことから、子どもたちの主体的に学ぶ力の育成に取り組むことは、喫緊の課題であると考えられます。前原中学校では、前述の「1年生ばるちゅうSTEP UP」、「ばるちゅうタイム質問教室」や日頃の授業など、生徒が「こんなことができるようになった」「こんなことをもっと学びたい」と思えるよう取組を進めています。

子どもの主体性を育む上で大切となる、「新しい自分」に気付く過程



7月・8月の行事予定

4日(土) 糸島区大会(卓球・バスケ)	18日(土) 夏季休業日～8月26日(水)
5日(日) 糸島区大会(卓球・バスケ)	筑前地区大会(陸上・卓球・剣道・軟式野球・体操)
11日(土) 筑前地区大会(柔道・男子バレー・バスケ・軟式野球・水泳)	21日(火) 三者面談～28日(火)
12日(日) 筑前地区大会(男子バレー・バスケ・軟式野球)	22日(水) 筑前地区大会(新体操)
13日(月) 平和学習、前期期末考査範囲発表・学習計画づくり	8月
17日(金) 暴力団排除教室、前期前半終了	10日(月) 学校閉庁日～14日(金)
	20日(木) 筑前地区新人大会(水泳)
	27日(木) 前期後半開始

今月のことば

「〇〇の友達、最後まで がんばれ！」

中体連大会で名前を知らない他校の生徒を応援する本校水泳部員の言葉